

平成30年度事業報告

1. 地域活動団体に関する育成・支援事業

(1) 共通テーマによる全国活動の支援

「食品ロス削減全国運動」として「フードドライブ」と「食品ロス削減家計簿手帳の配布」に取り組んだ。「フードドライブ」については生活学校・都道府県生活学校連絡会等45団体に対して活動経費の助成を行った。これまで取り組んだ3年間の延べ団体数は130団体。

「食品ロス削減家計簿手帳の配布」は、41,892冊を配布した（このうち市町村食品ロス削減担当課を通じて約27,000冊配布）。これまで取り組んだ2年間の配布累計は68,063冊。

(2) 生活学校・生活会議への支援

①活動への支援

- ・「新しい活動」に取り組む、生活学校13校、都道府県生活学校連絡会2団体、生活会議4団体に対して活動経費の助成を行った。
- ・「全国的な課題」に取り組む、生活学校15校、都道府県生活学校連絡会1団体、生活会議4団体に対して活動経費の助成を行った。
- ・「政策提言課題」に取り組む、都道府県生活学校連絡会2団体に対して活動経費の助成を行った。

②組織強化への支援

- ・新規に開設された生活学校36校、生活会議6団体及び開設2年目の生活学校21校に対して活動費等の支援を行った。
- ・新規校開設実現に尽力した生活学校3校、都道府県生活学校連絡会等5団体及び開設実現2年目の生活学校1校、都道府県生活学校連絡会等6団体に対して経費支援を行った。
- ・今後の運動の担い手として20代から50代までの若手メンバー加入を促進し、加入実現した生活学校16校（19人加入）に対して経費支援を行った。
- ・現地まで赴き生活学校相談（廃校対策）した都道府県生活学校連絡会1団体に対して経費支援を行った。
- ・他団体に全国運動へ参加してもらった連携活動に取り組む生活学校16校に対して経費支援を行った。
- ・生活学校の活動を紹介している広報紙を発行する都道府県生活学校連絡会等15団体に対して経費支援を行った。

③研修

- ・活動のアドバイス、相談相手になる人材を育てるため「地域活動アドバイザー研修」を開催し、39名が参加した。
- ・リーダーとしての資質向上や活動のステップアップを図るため、「生活学校リーダー

一研修」を開催し、25名が参加した。

- ・新規生活学校に対し、育成強化のため新規校研修を開催し、11名が参加した。
- ・新たに生活学校に入った若手メンバーに対し、今後の運動の担い手になるための基礎的な新人研修を開催し、6名が参加した。

④ネットワーク化

- ・生活学校のネットワークづくりのための「生活学校メーリングリスト」を運営した。
- ・生活学校・生活会議・他団体のネットワークづくりのための「地域づくりメーリングリスト」を運営した。

(3) あしたの日本を創る運動推進への支援

35の都道府県生活学校連絡会・都道府県協議会に対して、当協会の事業説明会の開催経費支援を行った。

(4) 全国生活学校連絡協議会への活動支援

「全国生活学校連絡協議会」に活動費を支援した。

2. 地域活動に関する情報の収集及び提供事業

(1) 情報誌「まちむら」の発行

日本宝くじ協会助成事業

自治会・町内会情報誌として年4回発行した。

(2) 新あした通信の発行

生活学校・生活会議に対して助成案内や全国運動の報告等を行うための新あした通信を送付した。

(3) インターネットによる情報の提供

ホームページおよびメーリングリストの運営により地域活動に関する情報提供を行った。

3. 地域活動に関する顕彰事業

(1) 活動団体の顕彰—あしたのまち・くらしづくり活動賞の実施—

「あしたのまち・くらしづくり活動賞」を、読売新聞東京本社及びNHKと共催して実施した。271編の応募の中から内閣総理大臣賞1団体、内閣官房長官賞1団体、総務大臣賞1団体、主催者賞5団体、振興奨励賞20団体を選び、顕彰した。

(2) 運動推進功労者・優れた活動団体の顕彰事業

あしたの日本を創る運動の推進において、他の模範となる顕著な活動実績を挙げた5名に対して内閣官房長官表彰が贈られた。また、活動の推進に尽力した4団体、13名および長期運動実践者16名に対して、会長表彰をもって顕彰した。

(3) エイジレス・ライフ実践者及び社会参加活動事例の推薦と受章

内閣府実施の「エイジレス・ライフ実践者」「社会参加活動事例」を紹介する事業に対して推薦し、それぞれ1名、1団体の活動が全国で紹介され、エイジレス章・社会参加章が贈られた。

4. 地域活動に関する各種集会等の開催事業

(1) 生活学校・生活会議運動全国大会の開催

平成30年6月20日に生活学校・生活会議、地域活動団体の活動の一層の発展と活性化を図るため、全国大会を開催し約250名の参加があった。分科会では、課題の解決方法や今後の活動の進め方等について研究討議を行い、連携を深めるため交流のつどいを開催した。

(2) ブロック研究集会の開催

- ①生活学校・生活会議、地域活動団体が、相互の運動の情報と課題を共有しながら、問題解決に向けた運動の進め方と今後の活動について協議し、5ブロックで開催し847名の参加があった。
- ②協会の事業方針の説明や意見交換の場を設け、今後の運動展開方策等についての共通理解を図った。
- ③全国運動について討議する場を設け、進捗状況や課題等について話し合った。

(3) 自治会・町内会講座の開催

自治会町内会等のリーダーを対象にした講座を開催した。自治会町内会関係者や行政職員等80名の参加があった。

5. 地域活動に関する相談・助言事業

(1) 地域活動に関する相談・助言事業

- ①「相談室」において、活動テーマの設定、活動資金の確保策、生活学校の運営、新規メンバーの参加や後継者育成等の個別の相談に対応した。
- ②地域活動団体や地方自治体の担当者からの、地域活動の先進事例や専門家についての照会・相談に対応した。

(2) 地域活動データベース

地域活動に関する問い合わせに対応するための活動事例や講師等の人材情報、生活学校のデータベースをホームページ上で公開し一般の利用に供した。

6. 国民の祝日に関する普及・啓発事業

「国民の祝日」の意義、趣旨等が、さらに広く一般国民に周知、理解されるよう「国民の祝日とは」を2回発行した。